

♪早苗 植えわたくす 夏は来ぬ

280人が9回目の田植え祭に

広町田んぼの会が催した第9回田植え祭に6月14日、親子連れを中心に、スタッフを含め280人が参加し、泥んこになって、5枚の田んぼ（計7アール）に若緑色の苗を植えました。

この日、梅雨の中休みの快晴に恵まれ、学校唱歌『夏は来ぬ』の歌詞どおりの光景が、緑濃い緑地に広がりました。参加者の半数を超える148人が子どもで、田んぼがある御所谷下流域は例年の田植え祭にも増して賑やかでした。

NPO法人・鎌倉広町の森市民の会が運営する「かまくら緑の探偵団」は小学生を対象に、自然と触れ合う機会を提供しています。その探偵団の41人が親子で参加したほか、近隣の「わくわく子ども会」40人近くが初参加加しました。

例年、大人と子どもの割合がほぼ同数でしたが、ことしは子どもの数が上まわったのには、そうした事情がありました。



秋には250キロを収穫

田んぼ5枚のうち、最も広いふじ田んぼ（約1.8アール）には、もち米のマンゲツモチ、他の4枚にはうるち米のサトジマンの苗を植えました。苗は田んぼの会が、れんげ田んぼの一面に設けた苗床で育てました。去年まで草地に育苗箱を置き、その上で育てたので、田んぼの中の育苗は初めてでした。

イネ1本が3本に枝分かれし、その1本が100粒ほど、3本で計300粒の粳を着けます。生長が順調ならば、2か月後の8月上旬には穂をつけ、10月半ばには、ざっと250キロの収穫が見こまれます。

市民の会は11月中旬、緑地で収穫祭を催し、新米をその場で炊いて、おにぎりやお餅を作り、畑の収穫物で芋煮や焼芋を調理して、市民に実費で提供します。



田植え祭に合わせて、市民の会の年間企画「里山さんぽ」も催されました。参加した2人のうちの1人は、田んぼを見て靴を脱ぎ、15分ほど田植えに加わりました。

そのあと、御所谷上流域まで谷戸の景観を楽しみながら、田んぼに水を供給する仕組み、谷戸を特徴づける動植物を見てもわりました。

7月初めには、上流域を白く彩るハンゲショウ鑑賞会が、やはり「里山さんぽ」の一環で企画されていますが、そのハンゲショウが草丈1メートルほどに伸びていました。

